



2019年10月16日

各 位

会 社 名 フェスタリアホールディングス株式会社
 代 表 名 代表取締役社長 貞松 隆 弥
 (JASDAQ・コード2736)
 問い合わせ先 取 締 役 姉 川 清 司
 電 話 番 号 03-5768-9969

通期業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

2019年10月15日に公表した2019年8月期(2019年9月1日~2019年8月31日)における通期連結業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 2019年8月期連結業績予想数値と実績値との差異について

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	10,100	250	210	100	85.51
実績値(B)	9,962	145	94	25	21.98
増減額 (B-A)	△138	△105	△116	△75	
増減率(%)	△1.4	△42.0	△55.2	△75.0	
(ご参考) 前期実績 (2018年8月期)	9,695	57	32	5	4.72

(注)当社は2018年3月1日付で普通株式10株を1株に併合しております。前期の1株当たり当期純利益につきましては、前連結会計年度の期首に株式併合が行われたと仮定して金額を算定しております。

2. 差異の理由

連結売上高につきましては、店舗のスクラップアンドビルド政策が奏功し、新規店舗が好調に推移したことから、前期比2.7%増と増収となったものの、第4四半期会計期間後半に想定していた消費税率引き上げ前の駆け込み需要が限定的であったことや九州地区を中心とした地方ショッピングセンターの低迷が影響し、僅かながら予想を下回る結果となりました。

利益面については、新規出店の拡大や店舗改装等に要する費用、物流機能の外部委託に伴う移管費用の発生など費用の増加要因があったものの、構造改革の取り組みとして本社のスリム化や販促施策の合理化を図ったため、費用全体は概ね計画通りに推移しました。一方、期末における在庫処分施策の強化や高付加価値商品の“Wish upon a star”が当初計画を下回ったことが主要因となり、売上総利益率が1.1ポイント低下したことから、売上総利益が当初計画を下回りました。

そのため、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は予想を下回る結果となりました。

以上